

ひきこもり経験者参画型による 『ひきこもり』理解啓発セミナー

特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク
〒064-0824 北海道札幌市中央区北4条西26丁目3番2号

助成事業の概要

長期・高年齢化が進む「ひきこもり」に対する偏った社会の誤解や偏見を解消し、ひきこもり経験者が主体的に社会参画することを通して、ひきこもり滞在期を人生の歩みにとって大切な宝物であるというメッセージを送る「ひきこもり経験者参画型ひきこもり理解啓発セミナー」を2011年11月12日(土)、札幌市教育文化会館で行なった。本セミナーは前半、教育評論家である芹沢俊介氏の「存在論的ひきこもり論・私は私のために引きこもる」と題する基調講演を実施、人間がなにゆえ「ひきこもり」というプロセスを辿るのか、そのメカニズムを解き明かし、ひきこもりの主体となる本人の存在を認めることが重要であると語られた。また、これに続く後半のシンポジウム「『ひきこもり』経験をこれからの人生の宝に」では、北海道内で活躍するひきこもり経験者3名の体験談発表と、田中敦理事長のコーディネートですすめた経験者3名と芹沢俊介氏を交えたディスカッションでは、ひきこもりから帰路したそれぞれ理由や思い、家族との向き合い方などについて示唆に富む実体験が話され、これに補足する形で芹沢俊介氏がひきこもりの捉え方、考え方を具体的に説明した。

事業の成果

「ひきこもり経験者参画型ひきこもり理解啓発セミナー」には、北海道内各地から一般参加者のほか、ひきこもり当事者・経験者、ひきこもりを

抱える家族、支援者など約90名の参加者があった。教育評論の分野で第一人者の芹沢俊介氏を迎えることができたことや、ひきこもりの状態から復帰して活躍している人たちの生の声を聴くことができる場になっていたことが多くの参加者の支持を得たと考える。本セミナー開催時に行なったアンケートの自由筆記では、「たいへん充実した内容で、すべてが納得いくお話でした。これを広めなければ若者の死は防げない、親もしっかりと考えを改めて子の命を守って欲しい」(60代女性)「わたしは「私」のために引きこもる、ひきこもりを全面肯定する…この気持ちがまず親にあったら、ひっこもり当事者にとって何よりありがたいと思います。」(50代女性)など、好意的な意見感想を寄せられた一方、「開催時間が長すぎた」「マイクの持ち方が悪く聞きにくい」などの指摘もみられた。本セミナーの事前準備から当日の横断幕の設置や受付などの業務は、すべてひきこもり経験者が担当し、当団体の理事者がシンポジストして発言した。これら一連の行為一つひとつが、社会に向けて「ひきこもり」に対する誤解や偏見を是正するものにもなり、社会参加の貴重な経験となった。多人数の中で行なわれる仕事でもあり、不慣れな部分も目立っていたが、間違えてでも最後までやり遂げる充実感は、緩やかな働き方が保障されているNPO事業で実践できたところにも成果がみられた。成果物として「ひきこもり経験者参画型ひきこもり理解啓発セミナー集録」を300部制作し、当日参加することのできなかったひきこもり当事者やその家族へ頒布した。

■ 今後の展開

「『ひきこもり』経験をこれからの人生の宝に」という言葉をひきこもり当事者やその家族が本当の意味で実現できるような政策を、NPO 団体がいかに実践していくのかが課題であり、そのためには「ひきこもり」経験者が自ら声を上げて発信し、少しずつ歩んで行ける姿を後に続く、「ひきこもり」で悩んでいる人たちに「行動し見せていく」ことが必要である。今回のセミナーを開催する事業に携わることで得た達成感をもとにして、次に展開していく事業を前向きに、そして緩やかに実行していきたい。